

214
11
270

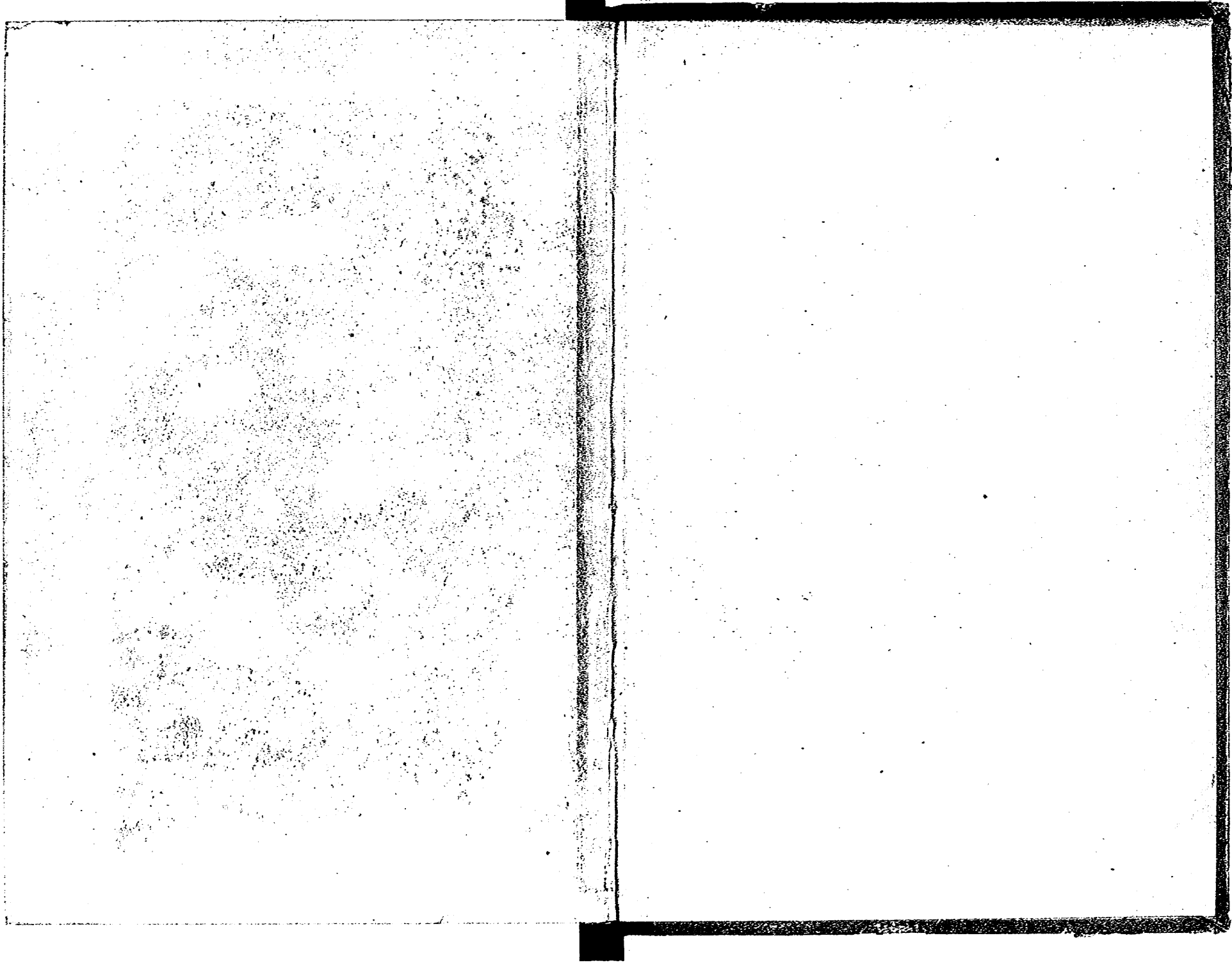
高等小學作文教授書三

K/2182
127
3

K121.82

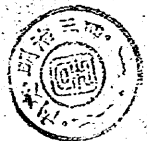
127

3



國光社編纂

高等小學作文教授書



東京

國光社

高等
小學
作文教授書三

目次

第一學期

- 一 日本三景
(讀本五第三課及小學日本地理)
- 二 山水月花の樂
(讀本五第四課)
- 三 花見に誘ふ文
- 四 右返事
- 五 氣候と植物との關係
(讀本五第六課)
- 六 植物と動物との關係
- 七 及第を賀する文
- 八 右返書

九 釜山浦

(外國地理書)

應用題 上海

(同前)

一〇 支那の風俗

應用題 印度の風俗

一一 開店披露の文

一二 營業鑑札願

一三 倫敦

(讀本五第九課)

一四 伯林

(同前)

一五 開業届の認方

一六 廢業届の認方

一七 心身の休養

(讀本五第十四課)

一八 夏の樂

(讀本五第十五課)

應用題 秋の樂

一九 金子借用を頼む文

二〇 金子借用證の認方

二一 水

(讀本五第十七課理科三第一、二課)

二二 空氣

(讀本五第十七課理科三第八課)

二三 金子預り證の認方

二四 寒暖計

(理科三第十五課)

二五 晴雨計

(同前)

第二學期

一 關が原の戰

(小學國史三第七)

二 大阪の役

(小學國史三第九)

三 舟遊を催す文

- 四 右返書
- 五 扇の的 (讀本五第二十三課)
- 六 我が國の威武 (讀本五第二十四課)
- 七 茸狩に誘ふ文
- 八 右返書
- 九 窒素 (理科書三第十二、十三課)
- 應用題 酸素
- 一〇 鹽素 (理科書三第十三課)
- 一一 借家の周旋を頼む文
- 一二 地所買入を頼む文
- 一三 誠 (讀本六第一課)
- 一四 節義 (讀本六第四課)

- 一五 火事見舞の文
- 一六 右返書
- 一七 道德と經濟 (讀本六第五課)
- 一八 熊澤蕃山 (修身書三第十九課)
- 一九 病氣の容體を告ぐる文
- 二〇 右返書
- 二一 蘇士運河
- 二二 土産を贈る文
- 二三 右返書
- 二四 火山
- 二五 地震

第三學期

- 一 光 (理科三第十六、十七、十八課)
(讀本五第十三課)
- 二 海軍の任務
- 三 馳走を受けし禮を述ぶる文
- 四 病中世話になりしを謝する文
(讀本六第十五課)
- 五 林子平
(修身書四第二十四課)
- 六 明石くぬ女
- 七 新聞紙の注文
- 八 材木の注文
(讀本六第十七課)
- 九 露西亞帝國
(外國地理書)
- 一〇 北米合衆國
(外國地理書)
- 一一 入學の手續を問ひ合す文
- 一二 右返書

- 一三 ナイヤガラの瀑布 (外國地理書)
- 一四 ニューヨーク府 (外國地理書)
- 一五 入學志願書の認方
- 一六 履歷書式
- 一七 公民 (讀本六第十八課)
- 一八 法律 (讀本六第十九課)
- 一九 入學を賀する文
- 二〇 右返書
- 二一 廢藩置縣 (小學國史三第二十八課)

高等小學作文教授書三

國光社編纂

第一學期 自四月至七月

文題

(一) 日本三景 (讀本五第三課小學日本地理)

設問法

設問の事項

三景の名、及位置、及景色の一斑を記せよ

範文

松島、橋立、嚴島を、日本三景と稱す。松島は、陸前の松嶋灣に、天の

橋立は、丹後の與謝の海に、嚴島は、安藝の西南海にありて、風光の秀麗なること、實に、海内無雙なり。松嶋は、數百の小島、星の如く列りて、悉く、松を生じ、翠色波に映りて、其の景色言はん方なし。天の橋立は、海中に斗出せる白洲にして、青松、其の上の茂生し、遠く、之れを望めば、恰も、一長橋の如く、風景絶佳なり。嚴島は、樹木生ひ茂りて、島中に、嚴島神社あり。潮滿つる時は、殿廊、水面に浮ぶかと思はる。いづれも、天下の奇觀といふべし。

(三) 山水月花の樂 (讀本五第四課)

復文法

言語の修述

山水月花の景色には、きまつた持主がない。これを樂むものが、其の持主である。富者でも、獨有することはできない。貧者

でも、常に得易い。朝から、晩まで樂んでも、身に、わざわざいもないが、人のとがあることもない。其の樂は、限りがなく、盡きることもない。それで、人は、天地自然の美を愛して、心を養ひ、氣を養ふがよろしい。

範 文

山水月花の景色には、一定の所有主なく、之を樂む人は、すなはち、其の所有主なり。富者といへども、之を獨有すること能はず。貧者といへども、常に得易し。終日樂むとも、身に、わざわざいもなく、人のとがむることなし。其の樂は、限りなくして、且盡くることなし。故に、人は、天地自然の美を愛して、心を養ひ、氣を養ふべし。

(三) 花見に誘ふ文

正誤法

左の文の誤を正せ

上野の櫻花眞盛の由幸に明日天氣に候へは御同遊願上度御
御いそがはしく候へども御差操下され度候

範文

上野の櫻花眞盛の由幸に明日天氣に候はゞ御同遊願上度御
いそがはしく候とも御差操下され度候

(四) 右返事

正誤法

左の文の誤を正せ

上野の櫻花眞盛の由にて御誘引下され有り難く候幸に明

日は日曜に候はゞいそがはしく候とも差操御件申しべく
候

範文

上野の櫻花眞盛の由にて御誘引下され有り難く候幸に明日
は日曜に候へはいそがはしく候へども差操御件申しべく
候

(五) 氣候と植物との關係 (讀本五第六課)

敷衍法

原文

氣候ノ寒暖ハ、植物ノ種類、及生長ニ、大ナル關係ヲ有ス。熱帶
地方ハ、珈琲、棉花、米穀、黑檀、白檀、鳳梨、椰子等多ク、寒帶地方ニ
ハ、矮小ノ灌木、苔蘚ノ類アルノミ。溫帶地方ニハ、米、麥、梨、葡萄、

松、柏等多シ。

範文

氣候の寒暖は、植物の種類、及生長に、大なる關係を有す。熱帶地方は、温熱と雨露との助大なるが故に、珈琲、棉花、米等の農産物、黒檀、白檀等の良材、鳳梨、椰子等の果實多く、寒帶地方は、年中氷雪解くることなきを以て、僅に矮小の灌木、苔蘚の類あるのみ。温帶地方は、四時循環し、寒暑來往するが故に、寒熱二帶の植物をも、併せ産して、其の種類、極めて多く、米、麥等の穀類を始として、梨、葡萄等の果物、松柏等の材木を産す。

(六) 植物と動物との干係

設問法

設問の事項

植物及動物の呼吸するものは何ものぞ、又其の關係を記せよ

範文

植物は、空氣中の炭酸瓦斯を吸ひて、之れを分解し、炭素を取りて、酸素を放つ。動物は、空氣を呼吸して、其の酸素を取りて炭酸を吐く。動物の害となるべき炭酸は、植物の養となり、植物の生長に不用なる酸素は、動物の生活に缺くべからざるものなり。此の如く、動物と植物とは、相待ちて、其の生を遂ぐるものなり。

(七) 及第を賀する文

自作法

範文

益御勇健賀し奉り候、此の度の試験に首尾能く御及第遊は

され候由平素御勉強の結果と深く感服仕り候御兩親様にも
嚙御満足の事と推察致し候尙此の上とも御勉強の程偏に祈
り上げ候右御祝ひまでかくの如くに御座候

(八) 右返書

自作法

範文

此の度の試験及第致候につき御丁寧なる御書面下され有り
難く拜讀致し候平素怠り勝に御座候故及第おほつかなき事
と案じ居り候處幸にも人並の成績を得しは全く先生の懇篤
なる教訓と貴兄の親切なる誘導とに依り候事と深く喜び居
り申し候先づは右御禮申し上げ度早々

(九) 釜山浦

(外國地理書)

自作法

範文

釜山浦は朝鮮の東南角にありて、我が對馬を去ること六十八
海里なり。天氣清朗にして、風波穩なる日は、遙に青山を認むる
ことを得べし。此の地は、古より、我が國と交通繁くして、居留の
邦人多く、別に、一市街をなして、盛に、貿易を營めり。

應用題 (上海)

(一〇) 支那の風俗 (同前)

自作法

範文

支那人は、辮髪を垂れ、身寬くして袖窄き衣を着す。氣風、尊大を
尊べども、亦能く禮節を重んじ、勤儉にして、貯蓄を務む。女子は、

常に、屋内に閑居して、みたりに、外出せず。足の小なるを貰ひて、幼より、之を縮少す。又、阿片を吸飲するの風、一般に行はれ、國法を以て、これを禁ずれども、容易に改むること能はず。

應用題 (印度の風俗)

(二) 開店披露の文

自作法

範文

小生事今般何町何番地に於て和洋小間物の營業開店致し候に付何卒御引立下され度且又御懇意様方へもよろしく御披露成し下され候様偏に希ひ奉り候

(三) 注作品を送る文

自作法

範文

時下追々暖氣相催候處益々御繁昌の段大慶至極に存じ奉り候次に弊店一同無事營業仕候間憚ながら御休心下さるべく候陳は先頃御注文相成候品物製造元品切れにて御申越の數たけ相整ひ兼ね候に付取敢へず何ヶたけ本日出帆の何丸にて御送り申し上げ候残りの分何ヶは本月中に御送り申すべく候條此段御通知申上候以上

(三) 倫敦 (請本五第九課)

指定法

指定の事項

倫敦の位置及人口

市街繁盛の模様

宏大なる建物、及製造業

範文

倫敦は、英國の首府にして、「テムズ」河に臨み、人口四百萬餘ありて、世界第一の大都會なり。市中は、人馬の往來織るが如く、鐵道四方に開通して、汽車屋上をはしり、或は河底を行く。王宮、議院、博物館、銀行、會社等、宏壯なる建築物、甚多し。又製造業、甚盛にして、烟突、高く空に聳へて、炭煙、天日を蔽ふといふ。

(二四) 伯林

(同前)

擬作法

前題倫敦に擬して作らしむ

範文

伯林は、獨逸帝國、并に普魯西王國の首府にして、「スプレー」河上

に立ち、人口、百七十七萬餘、歐洲第三の大都會なり。市街、整正にして、家屋、壯麗なり。王宮、兵營、學校、病院、劇場、旅館等、建築の偉大なるもの、甚多し。此の地は、北歐工業の中心なるのみならず、又、世界學問の源泉なり。

(二五) 開業届の認方

開業届

一何卸賣商

何郡市何町村何番地

但一ヶ年見積商金高何程

何 某

此收益金何程(資本金何程)

生年月日

右ハ今般開業候ニ付此段御届仕候也

年 月 日

右 何

某

何府縣知事(東京ハ警視總監)何誰殿

(二六) 廢業屆の認方

廢業屆

何郡市何町村何番地

何

某

右ハ今般何營業廢業致候ニ付此段御屆仕候也

年 月 日

右 何

某[㊦]

何府縣知事(東京ハ警視總監何之誰殿

(二七) 心身の休養

(讀本五第十四課)

正誤法

誤ある文

身ヲ勞セルモノハ、閑ヲ得テ、書見ナドシテ、心ヲ働カシメ、心ヲ勞セルモノハ、閑ヲ得テ、耕作ナドシテ、身ヲ働カシム。故ニ、連日

刻苦シ勉強シテ健康ヲ害ス業ヲ廢セルニ至ルベシ。然レドモ、常ニ、心神ハ、身體トコモ、休業スルコトヲ心掛クベシ。

範 文

身體を勞するものは、閑を得て、書見などして、心を働かしむべく、心を勞するものは、閑を得て、耕作などして、身體を働かしむべし。若し、連日刻苦して、非常に勉強せば、健康を害して、業を廢するに至るべし。されば、常に、心神と身體とを、こもでも休養することを中心くべし。

(二八) 夏の樂 (讀本五第十五課)

正誤法

誤ある文

夏ハ、漸ク深クナラバ、木トシテ繁ラザルモノナク、草トシテ榮エ

ザルモナク、山ト川ト、總ベテ緑ノ色ナラザルハナカリキ。夜半、
 螢ノ水ノホトリヘ飛ビカフサマ、サエシ月カゲノ、清キ水ヘヤ
 ドリシサマナド、マユトニ面白シ。木カゲナ流レシ水ノ音ナド
 聽カバ、心ハ清ラカナリ。夕立ノ、忽チヤミタルアトノ涼シキハ、
 イト心地ヨシ。

範文

夏も、漸く深くなれば、木として、繁らざるはなく、草として、榮え
 ざるはなく、山も里も、總べて、緑の色ならざるはなし。夜は、螢の、
 水のほとりに、飛びかふさま、さえたる月かけの、清き水に、やど
 れるさまなど、まことに面白し。木かけを流るゝ水の音など、聽
 けば、心もさよらかなり。夕立の、忽ちやみし後の涼しきも、いと
 心地よし。

應用題 秋の樂

(一九) 金子借用を頼む文

自作法

範文

明日商用にて神戸へ旅行致すべき所存の處金子の手都合相
 はづれ困却罷りあり候間誠に御無心の至りに御座候へ共金
 貳百圓本年末まで御貸し下され度御承引下され候はゞ早速
 證書持參致すべく御返報願ひ上げ候

(二〇) 金子借用証の認方

印紙
 金子借用証

一金貳百圓也

但利子月壹分貳厘

右借用仕候處實正也明治何年何月何日限り元利共相違なく返濟致すべく候萬一違約候節は證人に於て一切引受け辨償仕るべく候後日の爲め證書差入れ候也

年 月 日

何郡市何町村何番地

借主 何 某㊦

何郡市何町村何番地

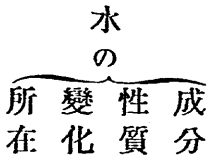
證人 何 某㊦

金主 何 の 誰 殿

(二二) 水 (讀本五、第十七課、理科三第一、二課)

指定法

指定の事項



範 文

水は、酸素一容と、水素二容とより成り、色なく、香なく、味もなき液体なり。冷ゆれば結晶して、氷雪となり、熱すれば、蒸氣となりて、全く形を失へども、凝りて、雲霧となり、雨露となり、霜雪となる。其の所在を求むれば、空中に、地上に、地下に、或は、動植物の体中に、到る所、存せざるはなく、物として含まざるはなし。

(二三) 空氣 (讀本五、第十七課、理科三、第八課)

擬作法

前題水に擬して作らしむ

範文

空氣は、澁酸素一容と、窒素四容とより成りて、別に、極めて、少量なる水蒸氣、炭酸、あんもに、あ等を含めり。色なく、香なく、味もなし。されど、重量を有するが故に、よく、輕氣球を浮はしめ、壓力を有するが故に、よく、晴雨計の水銀を昇降せしむ。水中にも、地中にも、動植物の體中にも、多少空氣を含まざるはなし。

(三) 金子預り證の認方

金子預り證

一金何百圓也

右は年利何程の割合を以て預り候處實正也利金の儀は毎年十二月御渡し申すべく若し元金御入用の節は何時たりとも

此の證書引換に返金致すべく候後日の爲め預り證かくの如くに候也

年月日

何郡市何町村何番地

預主 何の 誰印

何郡市何町村何番地

證人 何の 誰印

何の 誰 殿

(二四) 寒暖計 (理科三第十五課)

指定法

指定の事項

水銀昇降の理

寒暖計の製法及度の盛り方

效用

範文

寒暖計は、管中の水銀若くは火酒の昇降によりて、熱度の多少を知るものなり。すべて、物體は、熱すれば膨張して、容量を増し、冷ゆれば收縮して、容量を減す。管中の水銀も、此の理によりて、昇降するなり。其の製法は、細き玻璃管に、水銀を入れ、之を、氷の中に入れて、水銀の下り詰めし處を氷點となし、次に熱湯の中に入れて、水銀の昇り詰めたる處を、沸騰點とし、然る後、其の二點の間に、度を盛るなり。度の盛り方によりて、華氏、列氏、攝氏の三種あり。寒暖計は、氣候の寒暖を知るの外、醫療、釀造、養蠶等の業には、殊に、必要なるものなり。

(三五) 晴雨計 (同前)

擬作法

前題寒暖計に擬して作らしむ

範文

晴雨計は、空氣の壓力に基きて作れるものなり。管中の水銀の昇るは、晴天にして、降るは雨天の徴なり。又、其の、俄に昇降するは、暴風雨の起るべき兆とす。其の理は、晴天なれば、空氣は濃厚なり、濃厚なれば、壓力つよく、壓力強ければ、管中の水銀昇るなり。故に、水銀の昇るは、晴天にして、之に反すれば、雨天の徴となるなり。其の製法は、長さ三尺許の、一端は塞がり、一方は曲りて、球狀を成せる玻璃管に、水銀を入れ、管の上部に、度盛ありて、水銀の昇降を測るに供ふ。其の形狀は、種々あり。

第二學期 自九月 至十二月

文題

(一) 關が原の戰 (小國史三、第七)

指定法

指定の事項

原因

戰略及着手

兩軍の會戰

勝敗及其の原由

結果

範文

石田三成、小西行長等、徳川家康の威權、日に盛なるを忌み、之を除かんと欲し、上杉景勝と約し、東西、兵を擧げて、家康を夾み撃たんとせり。慶長五年、景勝、會津に在りて、家康に背きければ、家康、諸軍を將ゐて東下す。三成、虚に乗じて、兵を擧げ、先、伏見城を陥れ、美濃に至る。家康、之を聞き、軍をかへして、東海、東山兩道より進み、大に關が原に戰ふ。時に、西軍の將小早川秀秋、俄に、東軍に應じければ、西軍、遂に敗れ、三成以下、或は捕へられ、或は自殺し、景勝等、皆、家康に降り。是に於て、海内、徳川氏に歸せり。

(二) 大坂の役 (小國史三、第九)

擬作法

前題關が原の戰に擬して作らしむ

範文

豊臣秀頼長して、右大臣に任ぜられ、攝河、泉六十五万石を領して、大坂城にあり。家康、之を除かんと欲し、すゝめて、方廣寺を再興せしめ、以て、其の財を盡さしめき。且、其の鐘の銘に、國家安康の句ありしかば、家康、大に怒りて、之を咎む。是に於て、大野治長等、檄を、四方に傳へて、數万の兵を集む。家康、秀忠と、兵五十万を率ゐて、大坂城を圍み、外堀を填めんことを約して、和を講ぜり。然るに、東軍の吏、内堀をも填めしかば、治長等、大に、之を憤りて、翌年、再、兵を擧げたり。家康、父子、大兵を率ゐて、來り攻め、城終に陥り、秀頼自殺して、豊臣氏亡びぬ。是に於て、徳川氏の業、益固くなれり。

(三) 舟遊を催す文

添削法

原文

昨今より暑氣案外烈しく候へば、日中は凌ぎ兼ね候程に御座候間、今日もさぞかしと思ひやられ候に、付、午前十時頃より同志兩三輩を連合候て、某地に舟遊相催し、度、縁陰の水清き處に涼風を迎へ、一日の苦熱を忘れ、度、貴意思召如何に候や、至急御返事待ち入り候

範文

昨今暑氣殊の外烈しく、日中は實に凌ぎ兼ね候。今日、午前十時頃より、某地に舟遊相催し、水清く、風涼しき處に、苦熱を忘れ、度存じ候。貴意如何に候や、至急御返事待ち入り候

(四) 右返書

添削法

原文

仰の如く昨今より俄かに暑氣相加はり誠に弱り入り候處
舟遊御企ての趣にて御誘引成し下され恭悅の次第に御座
候後刻參殿致すべく候に付何卒御同遊の程願ひ上げ候先
は御返事まで早々

範文

仰の如く昨今俄に暑氣相加はり凌ぎ兼ね候處幸ひ舟遊に御
誘引成し下され有り難く存じ候何卒御同遊相願度先は御返
事まで早々

(五) 扇の的 (讀本五第三十三課)

自作法

(六) 我が國の威武 (讀本五第二十四課)

指定法

我が國武威の俗を説きて左の項を
逐ひて記述せよ

- (イ) 神功皇后
- (ロ) 阿部比羅夫
- (ハ) 北條時宗
- (ニ) 豊臣秀吉
- (ホ) 山田長政
- (ヘ) 濱田彌兵衛
- (ト) 征清の役
- (チ) 拳匪の役

範文

我が國は、古より、尙武の風、盛んにて、上には、萬世一系の、天皇
稜威をかゝり、下には、同胞一體の臣民、義勇を以て、君
國を守れり。神功皇后は、三韓を平け給ひ、阿部比羅夫は、肅愼を
征し、北條時宗は、蒙古十萬の兵をみなとろしにせり。下りて、豊
臣秀吉は、朝鮮を征伐して、明國をも震慄せしめ、山田長政は、武
名を、安南にとゞろかし、濱田彌兵衛は、國威を、臺灣に舉げぬ。近
くは、明治二十七八年、征清の役の如き、連戦連勝、遂に大捷を得
て、世界各國を驚かしめ、明治三十三年、拳匪の亂あるや、我が軍
隊は、連合軍の主力となりて、或は、大沽に、或は、天津に、或は、北京
に、到る處に勇戦して、國威を、宇内萬邦に輝せり。

(七) 茸狩に誘ふ文

添削法

原文

昨日某所の友人よりもはや茸出盛りに付遊びに参り候様
申し越し候間明日の日曜を幸ひ茸狩相催し度友人兩三輩
としめし合せ候へば貴兄には如何に御座候や御差し支へ
もこれなく候はゞ御同伴仕り度候否や御返事待ち上げ候

範文

昨日某所の友人より茸出盛りに付出遊を促し來り候間明日
の日曜を幸ひ茸狩相催し候ては如何御差し支へもこれなく
候はゞ御同伴仕り度御返事待ち上げ候

(八) 右返書

添削法

原文

茸狩の御催しの由にて懇なる御誘ひに預り忝なく存じ奉り候日頃心掛け居り候事故是非御同伴申し度候へ共生憎昨夜より母事風邪の氣味にて打ち臥し居り何分手放し兼ね候間遺憾ながら御斷り申し候悪しからず御承引願ひ上げ候

範 文

茸狩御誘引の御懇書拜讀仕候是非共御同伴願上度存し候へ共生憎昨夜より母事風邪の氣味にて打ち臥し居り何分手放し兼ね候まゝ遺憾ながら御斷り申し候悪しからず御推量下され度候

(九) 室素 (理科書三、第十一、十二課)

指 定 法

41 頁

〜

48 頁 欠

自作法

(一九) 病氣の容體を告ぐる文

範文

過日來度々御見舞下され御親切の段有りがたく御禮申し上
け候其の後は氣候の順に復するに従ひ薬のきよめも一層宜
敷日に増し快く相成り昨今は少々づゝ粥など食し候此の分
にては全快も遠からぬ事と存じ候間憚ながら御安心下さ
れ度尙御家内皆々様へも宜しく御傳へ下さるべく願ひ奉り
候

(二〇) 右返書

自作法

其後御様子如何々と案じ居り候折柄御書面下され拜見致し

候處昨今は殊の外御心よく御座候由安心仕り候御全快の日も最早遠からぬ事とは存じ候へ共何分長々の御病氣に候へは此の上とも一層御大切に御養生なさるべく祈り上げ候

(二) 蘇士運河

指定法

指定の事項

運河の位置、及開鑿せし人

運河の長、幅、深

運河開鑿の前後に於ける交通の便否

範 文

蘇士運河は、亞細亞洲と、亞弗利加と、相接する所、即地中海と、紅海との間にあり。今より、二十餘年前、佛人レセツプ氏の開鑿せ

しものにて、長さ四十一里、幅四十一間、深さ二十四尺あり。大艦巨船といへども、自由に通航するを得べし。此の運河の通ぜざりし以前にありては、東西兩洋の船舶、皆、亞弗利加の南端、喜望峰を迂回せしを、此の開鑿によりて、東西兩洋の交通、大に便利を得、貿易、俄に盛大となれり。

(三) 土産を贈る文

自作法

範 文

豫て御承知の如く、父儀伊香保へ入浴の爲め、參り居り候處、漸昨夜歸宅致し候間、此の段、御安心なし下され度候、留守中は何かと御心添へ下され、御親切の程、謝し奉り候。此の品、輕少には候へ、共同地の名産に、御座候間、御覽に入れ候。御笑留下され候

はゞ幸甚

(二三) 右返書

自作法

範文

拜啓御尊父には昨夜何の御障りもなく御歸宅遊ばされ候由賀し奉り候つては結構の御土産澤山頂載致し有り難く御禮申し上げ候伊香保は山水秀麗の地と聞き及び候へは珍らしき御話もある事と存じ候に付何れ近日御伺ひ申すべく候早々

(二四) 火山 (理科書)

設問法

設問の事項

火山の原因噴出物及活火山と息火山との例を挙げよ

範文

火山は地熱の働によりて、生ずる水蒸氣を、外に噴き出すものなり。夜間、其の火焰の如くに見ゆるは、地心の火熱の、水蒸氣に映するものにて、噴きいづるものは、煙にあらず。其の破裂するや、烈しく、地を轟かし、大石を飛ばし、熱き泥を降らせ、人畜田園を損害することあり。淺間山霧島等は、活火山にして、富士山、石狩岳等は、息火山なり。

(二五) 地震 (理科書)

設問法

設問の事項

地震の根原及震動の種別を問ふ

範文

地震も、火山と同じく、其の根原は、地熱の作用による、地震は、三種あれども、我が國にて起るは、地亡地震と、火山地震との二なり。火山地震は、噴火口の寒がれる時、又は、新に、噴火する際に起るを常とす。地亡地震は、地層の亡り落つるによりて起るものにて、其の震動、最烈しくして、最も恐るべきものなり。濃尾の震害、三陸の海嘯の如き、皆、此の地亡によれるなり。

第三學期

文題

(二) 光 (小學理科三、第十六、十七、十八課)

指定法

指定の事項

光の性、速度、反射

屈折の定則

れんすの作用

範文

光は、物體分子の振動より起る。其の進行、音よりも、はるかに速にして、ものに觸るれば、反射する性あり。光線は、密なる物より、疎なる物に斜に移るときは、垂直線に遠ざかり、疎なる物より、密なる物に移るときは、垂直線に近きて、屈折す。レンズに、凹面と、凸面との別あり。凹面レンズは、光線を、屈折して散ぜしめ、遠き處にある物を、近く見せしむ、凸面レンズは、光線を、一點に集め、小なる物を、大に見せしむ。

(三) 海軍の任務 (讀本五第十三課)

設問法

設問の事項

海軍の任務を平時と戦時とに區別して叙述せよ

範文

海軍の任務には、平時の任務と、戦時の任務との別あり。商船漁船を保護し、或は、外國船の密獵するもの、及法律命令を犯すものを警しめ、或は、海外に事變の起りたるときは、公使館、領事館及び居留民を保護して、其の生命財産の安全を得しむる等、これ皆、平時の任務なり。一旦、外國と、戦端を開きたる時は、敵艦を驅逐し、砲壘を陥れ、陸軍を護衛する等、その任務、更に、重且、大となるなり。

(三) 馳走を受けし禮を述ふる文

自作法

範文

拜啓昨日は參上御邪魔仕り思はずも御丁寧なる御もてなしに預り誠に有り難く御禮申し上げ候いつもながら御深切にあまへ失禮のみ仕り候段御宥怒下され度願ひ上げ候尙御閑暇の折は御光來御さるべく候敬具

(注意)

本學期より書簡文の首尾を附することを習得せしむべし首には拜啓、謹啓等の類尾には敬具、頓首、謹言等の類なり而して前學期までは大抵男女を通して一様ならしめられたれど本學期よりは幾分か之を區別すべし女子用文の首には「一

筆申上候『尾には』かして『若は』あらく／＼かして』等を附せしめ其の他自他の稱號の如きも『わたくし、わらは、御前様、御許様』などの語を用ゐしむる等文題の如何によりて教授の際充分に注意すべきなり

(四) 病中世話になりしを謝する文

自作法

範文

謹啓拙者病中は特別の御親情を以て種々御世話なし下され御蔭を以て再生の幸福を得申し候段御禮の中様も之なく候病勢日を追ひて快方に趣き候へは何れ平癒の上は參堂萬々御禮申し上ぐべく候へ共取敢へず略儀ながら書狀を以て御

禮申し上げ候頓首

(五) 林子平 (讀本六第十五巻)

敷衍法

原文

林子平ハ、仙臺ノ奇士ナリ。寒素ニ安シ、好ミテ、四方ニ遊ビ、心ヲ、海防ニ注ギテ、海國兵談、及三國通覽ヲ著セリ。幕府、命ジテ、板ヲ毀タシメ、仙臺ニ禁錮セリ。子平歿シテ後、十餘年、果シテ、露人ノ來寇アリ。

範文

林子平は、仙臺の奇士なり。寒素に安んじ、粗衣粗食を厭はず、自視ること、猶兵陣の間に在るが如し。好みて、四方に遊び、遠しとして、到らざるはなく、よく、諸國の風土、地勢の利害等を諳知せ

り。且、心を海防に注ぎ、海國兵談、三國通覽を著して、泰西の形勢を述べ、海防の忽にすべからざることを論ぜり。然るに、世人、未だ外事を知らず、無根の事を説きて、人心をまどはすものとなりし、幕府、命じて、板を毀たしめ、仙臺に禁錮せり。子平、歿して後、十餘年、果して、露人の來寇あり。時人、皆、其の先見の明に服せりといふ。

(六) 明石くに女

自作法

(七) 新聞紙の注文

自作法

範文

貴社御發行の何々新聞購讀致し度候に付半ヶ年分前金として金貳圓四拾錢郵便小爲替にて差し送り候何卒本日より御配達相成り度此の段申し進じ候也

(八) 材木の注文

自作法

範文

別紙仕譯書の通り材木入用に付木質等精々御撰擇の上本月廿五日迄に當地へ着し候様御積み送り下され度代金は着荷の上直様御送附申し上ぐべく候間右御承引相成り度先は御注文まで申し上げ候

(九) 露西亞帝國

(讀本六第十七課 小學外國地理一)

指定法

指定の事項

位置面積及人口

首府及東洋の軍港

露國の沿革

範文

露西亞は、歐洲東北部の大平原を占領せる大帝國にして、南は、獨乙、埃地利、土耳其等に接し、西は、バルチツク海、及瑞典に隣る。面積は、西比利亞を加へて、百四十萬方里、世界の六分の一を有して、世界第二の大國なり。人口、凡一億餘あり。首府をセントペートルスボルクといひ、ネバ河畔にあり。歐州第五の大都にして、人口、凡百萬餘、帝國貿易の過半は、概、此に行はる。浦鹽斯德は、我が函館の西方百五十海里にありて、要害の軍港なり。又、旅順

口は、近時、支那より得たる軍港にして、遼東半島にありて、勃海の咽喉を扼せり。此の國は、今より、凡二百年前までは、名もなき國なりしが、彼得帝位に即くに及んで、學術を輸入し、産業を興し、バルチツク海の濱を略し、黒海沿岸の地を奪ひて、勃興の基を立てたり。

(一〇) 北米合衆國 (外國地理書)

指定法

指定の事項

位置、面積、人口、産物、

首府及太平洋海岸の良港を記せ

範文

合衆國は、北亞米利加洲の中部に位し、北は、加奈陀に接し、南は

墨西哥に隣る。面積、アラスカ半島を合せて、六十万方里、殆ど歐羅巴全洲に似たり。人口は、凡七千万餘、其の増殖、殊に速なり。産物は、地方によりて異れども、金、銀、鐵、麥類、綿砂糖、烟草、綿布、毛布、機械等なり。首府を、ワシントンといひ、ポトマック河畔に位す。規模廣大に、市街井然として、建築壯麗なり。サンフランシスコは、太平洋海岸に在る最大良港にして、人口凡三十万。東洋諸國、及南洋諸國に達する重要な貿易港たり。

(二) 入學の手續を問ひ合す文

自作法

範文

拜啓益御清榮の段賀し奉り候扱小生義高小學三學年修業の上は御地中學校に入學仕り度候間入校の手續授業料及學年

の書目等御手数數ながら詳細御示し下され度願ひ奉り候敬白

(三) 右返書

自作法

範文

復啓御手紙拜見仕り候貴兄高等小學校第三學年御修業の上は當地中學校に御入學御希望の由にて入學の手續授業料等の件御問合に相成り委細了承仕り候別紙同校規則書一通差し上げ申し候間右にて御承知相成り度候謹言

(三) ナイヤガラの瀑布 (外國地理)

設問法

設問の事項

ナイヤガラ瀑布の位置、高、幅、及其の景狀を問ふ

範文

ナイヤガラの瀑布は、エリイ湖と、オンタリオ湖との間にあり。懸崖を飛び下ること十六丈中、ジードの一小島ありて、其の水を二分し、恰素練を懸くるが如く、萬雷怒號して、人をして、毛髪を立てしむ。幅二千尺に餘り、其の壯觀、宇内無比と稱す。

(一四) ニューヨーク府 (外國地理)

設問法

設問の事項

位置、人口、地利及其の繁盛の狀を記せよ

範文

新約克府は、北米第一の大都會にして、大西洋岸ホドソン河口にあり。人口二百五十餘萬、世界第二の大都會なり。前に、ロンダ

島を控へて、風波を防ぎ、東は、海路直に、歐洲に航すべく、西は、鐵路により、西海岸に達すべき要衝に當るを以て、船舶常に輻湊し、市街には、豪商大家軒を並べ、百貨運搬織るが如く、其の隆盛、倫敦に次けり。

(二五) 入學志願書の認方

入學志願書

(某儀御校へ入學致し度尤も本人の身上に關する事件は保證人に於て一切引受可申候間別紙履歷書相添此段奉願候

何府縣何郡市何町村何番地居住
何誰方同居何府縣華士族平民
戸主誰何男弟等
入學志願者 何

某
何年何月何日生

年月日

何府縣何郡市何町村何番地居住
 何府縣華士族平民
 保證人 何 某[㊦]
 何年何月何日生

何尋常中學校長何の誰殿

(一六) 履歷書式

履歷書

何府縣何郡市何町村何番地居住
 何誰方同居何府縣華士族平民
 戸主誰長男女弟妹等 何 某
 何年何月生

生所 何府縣何郡市何町村
 一何年何月より何年何月迄何所何學校に於て何科修業

一何年何月何學校に於て何科卒業證書を受領す

卒業証書之寫

何々

一何年何月より何年何月迄何所何誰に就き何學修業
 一何々

右之通に候也

(一七) 公民 (讀本六第十八課)

填字法

原文

市町村内○住スル者ハ、本籍ト寄留トヲ□○○、之ヲ□□ト
 ス、住民ノ、□□年以上、其ノ市町村内ニ、一戸ヲ□□、地租、□□、
 年額□圓以上ノ直接□稅ヲ納メ、□市町村ノ□□ヲ分擔シ、

□、年齢□□□歳ニ達シテ、□□ヲ有スル男子ヲ、公民○○。市町村ノ□□ハ、市會、町村會ノ議員ヲ選舉シ、□、其ノ議員ニ選舉○○○○ノ權ヲ有ス。

範 文

市町村内に住する者は、本籍と寄留とを問はず、之を、住民とす。住民の、二個年以上、其の市町村内に、一戸を構へ、地租、又は、年額二圓以上の直接國税を納め、及、市町村の經費を分擔し、且、年額二十五歳に達して、公權を有する男子を、公民とす。市町村の公民は、市會、町村會の議員を選舉し、又、其の議員に選舉せらるゝの權を有す。

(一八) 法律 (讀本六第十九課)

分解法

讀本六第十九課の文章を分解して左の各項に類別して記述せしむ

(イ) 法律の目的

(ロ) 公法私法の別

(ハ) 效力の發生

(ニ) 效力の範圍

(一) 法律の目的

法律の目的は、法に違ふ者を保護し、違はざる者に、制裁を加へて、社會の秩序を保つにあり。

(ロ) 公法と私法との別

公法とは、國家と臣民との關係を規定せるものにて、憲法、刑法等の如きをいひ、私法とは、臣民相互の關係を規定せるものに

て、民法、商法等の如きをいふなり。

(ハ)效力の發生

法律の效力は、公布の後、施行の期日より生ずるものなり。

(ニ)效力の範圍

法律の效力の及ぶべき範圍は、自國の領土、領海に限れども、海洋中の船舶、公使館及外國にある軍艦等は、本國の法律に支配せらるゝものとす。

(一九)入學を賀する文

自作法

範 文

拜啓貴兄今般某中學に御入校なされ候趣御満足の御事と賀し奉り候素より志操堅固の貴兄にあらせられ候へば御宿望

相遂けらるべき事疑ふべからざる事には候へ共都會の地は見るもの聞くもの一として珍らしからぬはなく従て業を中途にして廢し候者も多々これありとか此の邊よく御注意なされ候様祈り上げ候先は御喜び旁此くの如くに御座候敬具

(二〇)右返書

自作法

範 文

拜復小生今回某中學に入校致候に就ては御懇切なる御書面に接し誠に有り難く謝し奉り候小生の宿志相達し候や否や自分ながら覺束なく存じ居り候へ共年來思ひ立ち居り候事故志業相遂けずは斃るゝも止まぬ決心に御座候尙今後も相

變らず御教誨御願ひ申し上げ候先は御答禮迄此の如くに御座候再拜

(三) 廢藩置縣 (小學國史三、第二十八課)

指定法

指定の事項

徳川慶喜の政權奉還及天下の平定

諸侯の土地人民の私有及木戸孝允後藤象次郎等の封土奉還の議

四藩主の上表

岩倉具視木戸孝允西郷隆盛大久保利通等の廢藩置縣の議

廢藩置縣の詔

範文

徳川慶喜政權を奉還し、海内平定に至りしかども、大小二百六十餘の諸侯は、なほ土地人民を私有して、政令一途に出でざりき。土藩の後藤象次郎、長藩の木戸孝允等、相議して、各其の藩主に封土の奉還を勧めたり。こゝに於いて、土、長、薩、肥の四藩、先づ上表して、封土を奉還せんことを請ひ、ついで、諸藩も、之に倣ひて、封土の奉還を請ひければ、朝廷、これを許し給へり。後、岩倉具視、木戸孝允、大久保利通、西郷隆盛等、藩を廢して、縣を置かんとを議せり。明治四年、天皇正殿に御して、廢藩置縣の詔を下し給ひ、全國を分ちて、三府七十二縣とし、人才を擧げて、縣令に任じ、藩知事は華族として、東京に住ましめられたり。

高等小學 作文教授書三終

明治三十四年一月一日印刷
 明治三十四年一月四日發行



發行所
 代表者
 印刷者

株式會社
 國光社編輯所

東京市京橋一丁目
 株式會社
 國光社

東京市京橋一丁目
 西澤之助

東京市京橋八丁目
 河本龜之助

定價	
卷ノ一	金貳拾錢
卷ノ二	金貳拾錢
卷ノ三	金貳拾五錢
卷ノ四	金貳拾五錢
合計	金九拾錢

高等小學作文教授書奧附

